

例会日：毎週木曜日 18時30分 例会場：関観光ホテル 住所：関市池尻 91-2
 事務局：関市西本郷通 5-2-53 TEL (0575) 24-7332 FAX (0575) 23-5278
 会長 波多野篤志 副会長 古田博文 幹事 吉田和也 クラブ会報委員長 塚原康寿

2018~2019 年度 関中央ロータリークラブ会長テーマ
「自ら行動するロータリーへ！」



インスピレーションになる

4つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

本日のプログラム 第1954回例会 2018年10月11日(木) 担当 インターアクト委員会
 卓話 犬山焼窯元 後藤陶逸陶苑 後藤武徳様 テーマ 「犬山焼の過去、今、未来」

前例会の記録 第1953回 2018年10月4日(木)
 卓話 関市役所市民協働課 後藤 翔哉様
 テーマ 「関市で暮らす外国人の現状」
 担当 国際奉仕委員会

- *国歌「君が代」斉唱
- *ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱
- *R情報委員会 佐藤委員長「四つのテスト」唱和
- *お客様の紹介

*会長あいさつ 波多野篤志会長

先週末に台風24号が日本列島を縦断しました。非常に強い台風24号の影響は、この辺りでは、30日(日)の夕方から出ましたが進路が南にそれたせいか予想していたほどの暴風雨にならず良かったです。今週末は台風25号の影響があるかもしれませんので引き続き注意してください。



また、10月6、7日(土、日)の刃物まつりにポリオ撲滅の募金活動を行います。地区の財団委員会から来て活動をしてくれる予定になっています。6日

(土)は、関商工のインターアクトの学生さんが数名参加してくれます。当クラブも都合のつく方のご参加をいただけるお返事をいただいております。ご苦勞様ですがよろしくお願ひします。又、当日通りすがりでもいいので立ち寄れる方は顔を出して頂きたいです。よろしくお願ひします。場所は、わかきトンネルから南に出た千年町通りと本町通り交差点の所にブースを関ロータリークラブと設けています。皆さんに、ロータリー財団の事業であるポリオ撲滅を再認識していただきたいのでよろしくお願ひします。

今週は、台風の後、本庶佑京都大学特別教授(76歳)のノーベル医学生理学賞受賞が発表されました。本庶さんの免疫の研究が、がん免疫治療薬「オプジーボ」のもとになるたんぱく質「PD-1」を発見し開発につながりました。日本の受賞者としては27人目の快挙です。もう一人のアリソン博士(70歳)は免疫チェックポイント分子「CTLA-4」の機能を解明し、手術・放射線治療・抗がん剤に続く「第4のがん治療の道」を開拓した功績が評価されました。この表彰を受けて、ノーベル賞について知りたいと思いま

したので少し調べてみました。

ノーベル賞は、ダイナマイトの発明者として知られるアルフレッド・ノーベルの遺言に従って1901年から始まった、人類の福祉に最も具体的に貢献した人びとに授与するため設けられた世界的な賞です。以後毎年、ノーベル財団が、国籍、人種、宗教を問わず、物理学、化学、生理学・医学、文学、平和の5部門につき最も功績のあった人びとに授賞してきました。その後、1969年からはスウェーデン銀行の寄付により経済学賞も同様に授与されるようになったそうです。メダル・賞状・賞金がノーベルの命日に当たる12月10日に贈られます。さて、なぜこの賞が出来たのでしょうか？ノーベルは真からの人道主義者であり理想主義者であったにもかかわらず、破壊的なダイナマイトの発明で、生前の評判は決して芳しいものではなかった。彼はこの無念の気持ちと平和への志をノーベル賞制定の遺書に託し、その基金としての全財産の3100万クロナを残して1896年に他界しました。遺書には「候補者の国籍はまったく考慮しないこと」「人類の福祉にもっとも具体的に貢献した人びと」に与えるなど、賞についての細部にわたる指定が行われ、その内容は現在に至るも少しも変更されていないそうです。

授賞式と賞品について

授賞式は首都ストックホルムのコンサート・ホールで、毎年12月10日午後4時30分、ノーベルの逝った日の同時刻から行われ、スウェーデン国王から授与状とメダルが贈られます。ただし平和賞だけは、同日にノルウェーの首都オスロで行われます。授与状のデザインは授賞者各人によって違いますが、メダルの表は同じで、23カラットの金、ノーベルの横顔のレリーフ（浮彫）です。賞金は式の翌日、ノーベル財団で渡される。その額は年によって違うが、2010年時点では、1部門で1000万スウェーデン・クロナ（日本円にして約1億円）、同一部門で複数受賞の場合は分割されます。これは世界でも高額の賞金です。受賞者はその後6か月以内に、受賞業績の一つについての講演を行う義務があり、講演内容の著作権はノーベル賞基金理事会に帰属するそうです。

これまでに、日本人の受賞者は物理学賞9名（湯川秀樹、朝永振一郎、江崎玲於奈、小柴昌俊、益川

敏英、小林誠、赤勇、天野浩、梶田隆章）。化学賞7名（福井謙一、白川英樹、野依良治、田中耕一、下村脩、鈴木章、根岸英一）、文学賞2名（川端康成、大江健三郎）、平和賞1名（佐藤栄作）、生理学・医学賞3名（利根川進、山中伸弥、大村智）で、日本人としては23番目になります。

今回のこの賞をいただくにあたって本庶さんはこのようなことを言ってみえます。私自身の研究（でのモットー）は、「なにか知りたいという好奇心」があること。それから、もう一つは「簡単に信じない」ことだそうです。よくマスコミの人は「ネイチャー、サイエンスに出ているからどうだ」という話をされるけども、僕はいつも「ネイチャー、サイエンスに出ているものの9割は嘘で、10年経ったら残って1割だ」と言っていますし、大体そうだと思っています。まず、論文とか書いてあることを信じない。自分の目で確信ができるまでやる。それが僕のサイエンスに対する基本的なやり方。つまり、自分の頭で考えて、納得できるまでやるということです。また、将来、研究者の道に進む夢を見る子どもたちに、こんなメッセージを語られています。研究で大事なものは「自分の目で確信ができるまでやる」子どもたちに育ててほしい「不思議だなと思う心」研究者になるにあたって大事なものは「知りたい」と思うこと、「不思議だな」と思う心を大切にすること、教科書に書いてあることを信じないこと、常に疑いを持って「本当はどうなっているのだろう」と。自分の目で、ものを見る。そして納得する。そこまで諦めない。そういう小中学生に、研究の道を志してほしいと思います。と言われました。

私も前回報告しました、関市児童生徒科学作品展や発明展で小中学生の作品の中に純粋な考えの中には初めから持っているんだなと思いこれからも大切にしたいと思いましたし支援をして良かったと思いました。これからも子どもたちにこのような機会を与えられる事業を考えていきたいと思いました。

*卓話

関市役所市民協働課 後藤翔哉様
テーマ「関市で暮らす外国人の現状」

岐阜県関市は日本の人口重心、中間に位置するまちである。まちの様



子をみてみると外国人が多いなと思われる方が多いであろう。国内人口の減少により、「外国人がいなくては成り立たない」といった声が聞かれるように、市内のコンビニや工場、飲食チェーンなどで働く外国人の存在が多く確認できる。もはや、欠かせない存在になっている。国が毎年公表する統計によると、日本に住む外国人、外国人労働者、外国人留学生は増え続けており、平成29年末時点で256万人と過去最高になっている。20年前と比べると約100万人も増えている。

本市においてもこの状況は当てはまる。今年の8月末現在の外国人人口は2,036人、関市の人口は89,143人であるので、人口の約2%を占めることになる。平成23年には、1,800人程であったので、この7年間で200人増加したことになる。国別でみるとベトナム人が535人、中国人が512人、ブラジル人が454人、フィリピン人が229人、朝鮮・韓国人が73人と続く。ちなみに、岐阜県全体では、外国人住民数は50,284人（平成30年6月末現在）であり、フィリピン人・中国人・ブラジル人が60%を占め、ベトナム人の割合は10%ほどである。

このように人口減少とグローバル化により、外国人の割合が増加する現代日本において「内なる国際化」の延長線上にある「多文化共生社会」の実現が「だれもが住みやすいまちづくり」を実現するためには不可欠であると思われる。「どうやって相手と分かりあえるか」また「どうやって共通の目的のために協働していくか」、市や国際交流協会の取り組みを紹介したいと思う。

在留外国人の在留資格には、国際結婚などでの永住者、日本人の配偶者、留学生、技能実習生、看護師・介護福祉士候補生等がある。このうち本市において最も多い割合を占めているのが、近年ベトナム人や中国人に多くみられる外国人技能実習生である。しかし、90年の改正入管法の施行以来、外国人研修生・技能実習生と同じく南米出身日系人や日本人の配偶者等が急増している。これらの人々は定住傾向にあり、これら外国人の処遇を考えることが関市の国際化のバロメーターとも言えるのではないかと。外国人も住みやすいまちとなるため、本市ではブラジルの公用語であるポルトガル語の通訳の配置、

広報誌「広報せき」のポルトガル語翻訳、災害時避難情報の多言語発信、日本語教室、異文化交流などに取り組んでいる。

異なる背景や価値観を認め合うとともに、外国人住民の社会参加を積極的に促すことが「だれもが住みやすいまち」の実現への一歩だと考える。そのためにも今後、外国人住民が自立した生活を送っていくための日本語学習といった支援を市全体で強化していかなければならない。市・協会以外にも、企業による外国人従業員に対する日本語教育等を行い、市・まち全体でより一層の「だれもが住みやすいまち」へ、地域の国際化を図っていきたいと考える。

*出席委員会

会員数34名、本日の出席22名です。

*ニコボックス委員会

・会長・幹事

本日はお忙しい中、関市役所 市民協働課 後藤翔哉様 卓話に来て下さりありがとうございます。関市で暮らす外国人の現状、しっかり勉強をさせていただきます。

・伊佐地金嗣君

欠席がちで申し訳ありません。

・川村紳一君

1年2カ月ぶりに再入会することになりました。依然と変わらぬお付き合い、ご指導よろしくお願ひします。

・小澤重忠君

市民協働課 後藤翔哉様のご来場を歓迎して。

22名のご投函ありがとうございました。

*幹事報告

・例会終了後、理事・役員会及び指名委員会を行います。

・関刃物まつりでポリオ撲滅募金活動を行いますのでご参加をお願いします。

・東海北陸道グループクラブ対抗親睦ゴルフ会の結果報告

<次例会の案内>

第1955回 2018年10月25日(木)

「C. A 地区大会報告」 担当：会長・幹事